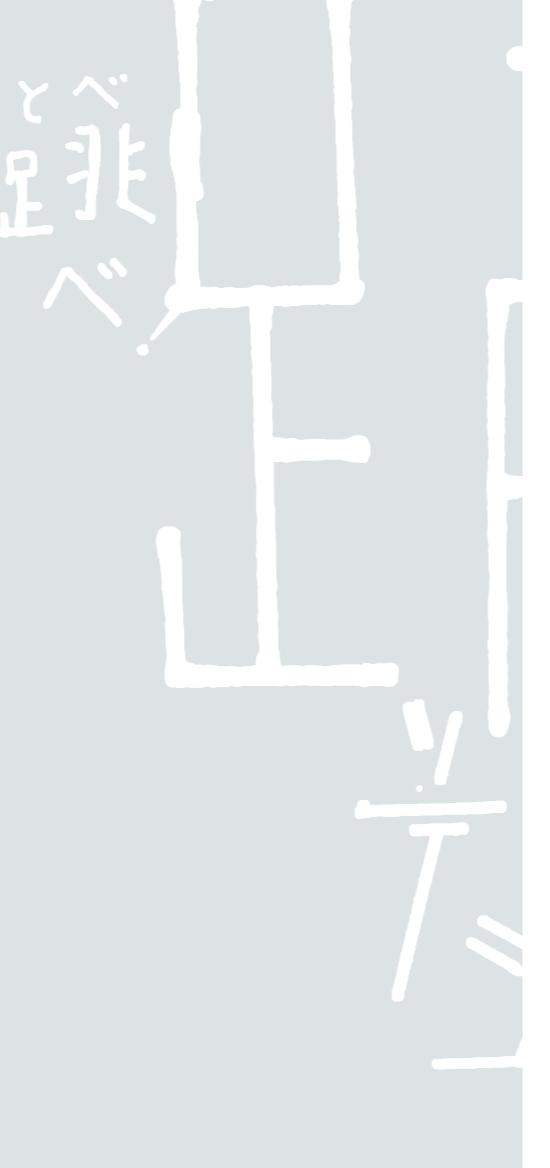


埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集  
タマップダンス公演 2020 ワークショップ 記録集



埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集  
タマップダンス公演 2020ワークショップ 記録集  
「跳べ！いっそ踊ってしまえ！」

## はじめに

新たな表現の発掘を目的とし、ダンスワークショップを開催して今年で4年目となりました。本年度のワークショップの開始前から、世の中は誰もが予想しえなかつ未曾有の事態に飲み込まれ、特に障害のある人々は社会との分断に苦しみました。人と接触せず密を避けなければいけない制約の中、果たして踊れるのか。そんな実験にも似た試みを、毎年講師としてご参加いただく竹中幸子先生とともに考え、模索しました。

しだいに浮かび上がってきたのは、制約がある中でこそ生まれる身体の動きの美しさや、そのメッセージ性。これまで「表現とは何か」と考え続けてきた私たちの前に、新しい道が広がった瞬間でした。そしてこの道が続く限り、発信することを諦めてはいけないと強く感じています。

彼らは新たな道を軽やかに踏み鳴らしています。この模様を冊子と動画にまとめ、本年度の報告と致します。

どうぞお楽しみください。

### 【ワークショップ開催日】

- 2020.8.4  
9.12  
10.3  
12.12  
川口太陽の家
  
- 2020.9.18  
10.6  
11.4  
12.9  
埼玉県障害者交流センター



TAMAPダンサーとの企画は私にとって実に魅力的なもの。過去のワークショップで出会った彼らのユニーク且つ美しい動きが頭をよぎる。彼らを敬ってさえいるようなスタッフとの仕事も大きな喜びだし、ベストプレイスとの共演も楽しかろう。しかし、コロナに襲われた……。

このウイルスの感染拡大の中、「実際に触れ合い寄り添うことで動きを創っていく自分のダンスは、新しい生活様式の中で可能なのか」という根本的な問題を考えると心が委縮してしまい、この企画の可能性にも疑問を感じる程だった。

しかし、いくつかの強さに背中を押されてここに立てている。仲間たちの可能性を見てみたいというスタッフの静かな強さ、仲間たちの動きたいという純粋な思いの強さ、そして彼らの作品群の強さである。

とりわけ彼らの作品からは「作品を創るためにダンスをしていたわけではなかった」という大切なことを思い出させてもらった。彼らの作品が見せるためのものではなく生きることそのものであるのと同様に、私たちにとってダンスは生きること、そこにいることを確認することだった。その人がそこに立つと周りの空気がザワザワと動き、手を上げれば空気の波はさらに大きくなり方向を変えて広がる。波及したその先では別の方がその波を受けて新たな波を作り出し、目には見えないつながりを表出させる。ここにはそんなダンスのできるダンサーが集まっているのだ。

だとすれば、踊ることを止めなくていい、止めることはできない。いっそ踊ってしまえ！と小さくつぶやいて舞台に向かおう。

竹中 幸子



表現者として悩み、進む

ダンスワークショップが始まると、参加するダンサーたちは体をほぐしていく。皆で同じ動きをしたり、それぞれが自由に動いたりするなかで、その人がまとう「空気」が見えてくる。空気は寄り添ったり、ぶつかり合ったりしながら波を起こし、その場の空気を力強く揺らしながら見ている人を感動で包み込む。

表現者として、彼らは日々悩んでいる。特別な訓練をしたわけではない自分のダンスに対して、「これでいいのか？」と自問しながら、それでも対話を重ね、自発的に提案し表現しつづける姿勢は、日ごろアーティストとして行なっている創作活動と共通する。表現の根っこは同じ場所にある。

## 作品を通じて関わり合う

初めての試みとして、ダンスワークショップに作品を取り入れた。立体造形、織り物、ステンドグラス、貼り絵、衣装などさまざまな作品を集めて意見を交わすなかで、彼らの目は輝きを増していき、スタッフは何かすごいものが生まれる予感に興奮を抑えられなかった。

作者の魂が込められた作品はただの舞台装置の一つではなく、まるで一人のダンサーのようにいきいきと動いていた。そして作品を介して仲間同士が関わることは、制約の多かったこの一年間の中でも大変な時間となり、ダンスだけでなく創作活動に向かう気持ちをゆるやかに押し上げた。







## 強い願いを、舞台に託す

ワークショップも終了に近づき、  
ダンスは仕上げの段階を迎えた。  
緊張感のある練習の中でも、指導  
の竹中幸子先生とダンサーの間に  
は自分らしく表現し合える安心感  
のような絆が生まれていた。

舞台の中で彼らのダンスがひと  
きわ輝くのは、動きの一つひとつ  
がリアルだからだ。悩みもがきな  
がら、それでも「見てほしい」と  
いう切なる願いを、ダンスや創作  
の表現に託している。そのように  
して湧き上がった表現に、余計な  
言葉はいらない。ただ美しいのだ。



# Dancers

## ダンサーズ紹介

### TAMAP dancers

阿部 美幸 あべみゆき

私の衣装は、真っ赤なワンピース。いつも描いている絵「相合傘」でもよく使っている大好きな色です。この衣装を作ってくれたのは片波見さん。片波見さん、ありがとうございます！このダンスをたくさん的人に見てほしいです。学校の卒業生とか、東ちづるさんとか。楽しい音楽にあわせて、いっしょに身体を動かしますから、見てください。



あべみゆき

### TAMAP dancers

伊藤 裕 いとう ゆたか

コロナが増えたから延期になってしまったかなしい。本番は記念撮影もしたい。電車のダンスをかっこよく踊りたい。



いとう ゆたか

### TAMAP dancers

片波見 知代 かたばみともよ

今回のダンスでは衣装づくりを担当しました。それぞれ、生地選びから始めて、1着作るのに2、3日かかります。出来上がって渡した時「ちょっと違う」と言われたことも。でも作り直すのは、余裕です。私の仕事ですから。

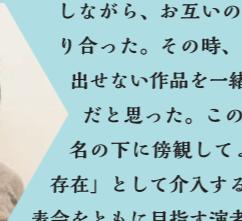


かたばみともよ

### TAMAP dancers

閔 翔平 せきしょうへい

僕の扇子を持った動きは堂々として気に入っています。長谷川くんのダンスを見て自分なりにレンジしてみました。伊藤くんのダンス、ドリフみたいで面白かったなあ、笑っちゃう！コロナで大変だから見てる人にも笑顔になってほしいな。



とよだあき

### TAMAP dancers

高谷 こずえ たかや こずえ

お客様に見せたくて「キラキラのせんす」を作りました。ダンスの小道具って今まで作ったことがなかったけどほめてもらえたのが嬉しかったです。コロナで公演が延期になっちゃってとても残念です。大切なものがなくなると、踊りとかダンスがなくなると、さびしいですよね。いつ、できるかな。



たかや こずえ

### TAMAP dancers

西川 泰弘 にしかわ やすひろ

ダンスをしている間は自分以外の何かに憑依している。ダンスをすると魅力的な自分になれる。アートだけじゃなくてダンスをやつたら見てもらえる、有名になる、そんな気がした。いつも自由な気持ちで踊っている。恥ずかしさはない。自分の想いを体で表現するだけ。竹中先生は包容力があって会うと元気をもらえる。



にしかわ やすひろ

### TAMAP dancers

豊田 亜紀 とよだ あき

音やリズムを感じながら、走ったり止まったりした。離れたり、また集まったりしながら、お互いの顔を見つめ、手を取り合った。その時、その場所でしか創り出せない作品と一緒に創り出しているんだと思った。この空気感を、支援者の名の下に傍観してよいものか。「異質な存在」として介入することの違和感が、発表会とともに目指す演者としてワークショッ

プに参加したいという希望を私に持たせた。仲間の表現に感化され、尊敬と憧れを抱く自分を自覚しながら、支援される者と支援する者との隔たりがこの瞬間はないのだという感覚を、ダンスワークショップを通じて得ることができている。



にしかわ やすひろ

### TAMAP dancers

白田 直紀 はくた なおき

体を動かすのが大好きです。踊れるか不安だったけど克服していきたいと思いました。ダンスをやる気持ちちは負けたくないです。マスクをつけてるけど目の表情を見て「あの人も楽しんでる！」って分かるから、力が湧いてきます。ダンスをやってながら仲間との絆はなかったです。続けていきたいです、僕にしかできないダンスを。



はくた なおき

### TAMAP dancers

安田 拓海 やすだ たくみ

耳が聞こえなくても、音の「ドーン！」っていう振動を感じています。仲間といっしょに踊りたいからまわりの人を見ながら、目で追って踊ります。牛の衣装はお気に入り。牛のつもりで踊ります。ダンスの小道具として、僕が編んだ長い編み物の作品が使われてます。



やすだ たくみ

### TAMAP dancers

納田 裕加 のうだ ゆか

ずっと舞台に上がるのが夢でした。舞台上に上がっている人はキラキラして



のうだ ゆか

### TAMAP dancers

長谷川 昌彦 はせがわ まさひこ

コロナばかりだよ。あきた。みんなあきた。ダンスは面白かった。高谷さんが



はせがわ まさひこ

作ってくれたセンスのダンス。片波見さんが作ってくれたズボン。

コサック。フラメンコ。フラダンス。ヨガ。アミーゴ。アラベスク。2020年、挑戦。2021年、未来の力。



やすだ たくみ

スリラー・ジ・ビートイット。アマゾンビ。お母さんに見せたい。

### TAMAP dancers

ヤマダジュンヤ

私はダンスワークショップでいくつかのことを学び、成長させていただきました。

Tamap

Best Place

# Dancers ダンサーズ紹介



ヤマダ ジュンヤ

その1つが山田順也が山田順也でいいといふことです。最初の練習のとき、私は極度の緊張と不安で、自分らしい動きもできず周りばかりを気にしていました。楽しいはずの練習も、精神の疲れで辛いものとなりました。それを変えてくれたのが同じダンスワークショップを練習した仲間でした。仲間は疲れたと言なながらも、その笑顔は満足感で満たされていました。私も一回一回仲間と練習するたびに、自分自身を出せるようになっていました。仲間には、これからも感謝、ありがとうございますの気持ちで関わっていきたいです。

## Best place

草野 惠 くさの めぐみ

竹中幸子先生のご指導は、素晴らしいです。ウォームアップから、創作まで、すべてにおいて、素晴らしかった。タマップの方々はみなさん、チャーミングでした。一緒にできて、貴重な経験になりました。

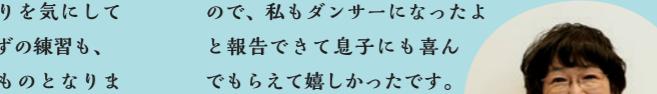


また。私も少しダンスを創作できたので、それも良い経験でした。私は息子がヨーロッパでプロのダンサーをしているので、私もダンサーになったよと報告させて息子にも喜んでもらえて嬉しかったです。

## Best place

小林 芽美 こばやし めみ

私は自分から発することは自信がありません。表現すること、踊ることは得意ではありません。どう思われるか、評価されることが気になり不自由になります。そんな自分からの解放を願っての参加でした。タマップのみなさんはそんなことお構いなく表現されます。ダンスは関わる楽しさがあり、自由みなさんと楽しいワークの時間を過ごしました。



山田 順也

積極的になっていました。竹中先生は、即興ダンスのワークショップの中で、参加者が生き生き踊る瞬間を選び出し、それを紡いでダンス作品として構成していました。そのため、個々が輝ける、とても印象的なシーンで満ちていました。扇子を与えられ、まるで日本舞踊の先生になったかのように踊る姿。転がる大きな布の巻物を必死に追いかけ回る姿。自分が作った編物作品の前で、静かに糸を編むような動きをする姿など。参加者が一生懸命に踊る姿は、とても心打れるものでした。

## Best place

福田 京子 ふくだ きょうこ

初めは戸惑っていた様子の仲間たちが、回を重ねる毎に生き生きとした表情に変わり、一人ひとり表現することに自信を持って踊っている姿を間近で見ることができ、私自身とてもワクワクした気持ちで参加させていただきました。

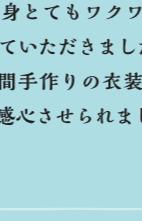
## Best place

瀧谷 智志 しぶや さとし

参加者は踊ることにとても



福田 京子



瀧谷 智志



竹中 幸子

この先に繋がって行くことを願っています。

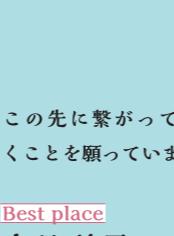
## Best place

吉澤 慎吾 よしざわ しんご

「COVID-19」という感染症下の社会の中、ソーシャル・ディスタンスを意識せざるを得ない状況。然しながら、逆に気付きを得ることができたと個人的に感じています。

ダンスというのは人や空間と共にある物であり、特に人と人・人と物との対話というものを表現するのがコミュニティダンスの最も重要な部分だと思っています。

これを「ソーシャル・ディスタンス」という名の下で人と人が物理的に近づかないこと、人ととの身体感覚を拡張せざるを得ない状況を作り出した。TAMAPでも第一回目の当初は『難しいかもしれない』と思わざるを得ませんでした。



吉澤 慎吾

ですが、距離を保ちながらも相手とコンタクトすることが出来たり、相手の存在を意識する仲間たちの姿を顕著に見受けられ、私も驚きました。こんな環境下だからこそ「相手と接したい」という思いを強く感じ、自分自身も学びました。

あまり良くない言い方かもしれません、良くも悪くも「コロナ禍でしか生まれ得なかったダンス」だと思います。

私も出演予定の舞台公演や仕事が立て続けに延期やキャンセルになり手厳しい1年になってしまいました。ただ、TAMAPの仲間のあんな姿を見ることができたのは嬉しい限りです。

## Best place

渡邊 充子 わたなべ あつこ わたなべ あつこ

ワークに参加するたび、みなさんの表現の豊かさを感じていました。ありのままに身体全体で自己表現する姿が素敵です。

言葉でなくても感じるままに表現することで気持ちも伝えることができ



ますね。

コロナ禍で日常生活が今までと変わってしまいましたが、やっぱりみんなで踊るのは楽しいなあと思いました。一緒に活動できましたこと感謝しています。ありがとうございました。

## 舞台監督

杉江 尚子 すぎえ なおこ

当初は、ソーシャルディスタンスを意識して踊ることにダンサーズの戸惑いが感じられた。これまで互いに触れ合い、温もりを感じながら踊ってきたのに、握りしめたスティック越しに繋がる、区切ったエリアから出ない等の制限がある。竹中先生も試行錯誤しながら作品を構成していく。

それでも、ワークを重ねていくうちにダンサーズ同士の心が通じ合い、踊ることの楽しさをかみしめているのが見てとれるようになった。

もし上演されれば、コロナ禍の閉塞された日常に一石を投じる作品になったに違いない。

## ベストプレイス

障害を持った方、その家族、ダンスに興味のある方、障害者との活動に興味のある方が集まつたダンスグループ。

年齢・性別・障がいの有無の枠を超えて、時間と空間を共有し、共に生きることの可能性を探ることを目的として、2000年から埼玉県を拠点として活動している。



<https://bplace2000dance.wixsite.com/bestplace>



竹中 幸子

たけなか ゆきこ

構成・演出

お茶の水女子大学文教育学部表現体育学専攻卒業。聖心女子学院教諭、県立川越女子高校非常勤講師等を経て、ウォルフガング・シュタイン、アダム・ベンジャミンらのワークショップに触発され、障がいの方を含むダンスグループ「ベストプレイス」を2000年に立ちあげる。クリエイティブアート実行委員会指導者養成コース修了。障がい児デイサービス、港区ふれあいアート事業による区内10数か所の保育園、仮設住宅でのワークショップリーダーの経験を持つ。自身のパフォーマンス活動に加え、2007年よりベストプレイス単独公演を年一回のペースで開始。

## 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集

障害のある人やその家族、支援者の「創る」「深める」「広げる」「守る」をサポートしています。

福祉、アート、教育、行政、司法などの専門家や専門機関と連携して対応しています。また企業等からの障害者アートの活用等の相談も受け付けています。  
どうぞお気軽にご相談ください。

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1445 (社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内)

Tel : 048-290-7355

E-mail : kobo-syu@marble.ocn.ne.jp



<http://artcenter-syu.com/>



TAMAP土(O) (タマップドラマゼロ)

埼玉県障害者アートネットワーク

埼玉県内で表現活動に取り組む福祉施設、行政、様々な分野の専門家、作家などによるネットワーク。ダンスワークショップのほか、埼玉県障害者アート企画展などを協働で開催し、障害のある人の表現やその魅力、可能性を発信している。





竹中 幸子

踊ることを止めなくていい、  
止めることはできない。  
いつそ踊ってしまえ！と  
小さくつぶやいて舞台に向かおう。

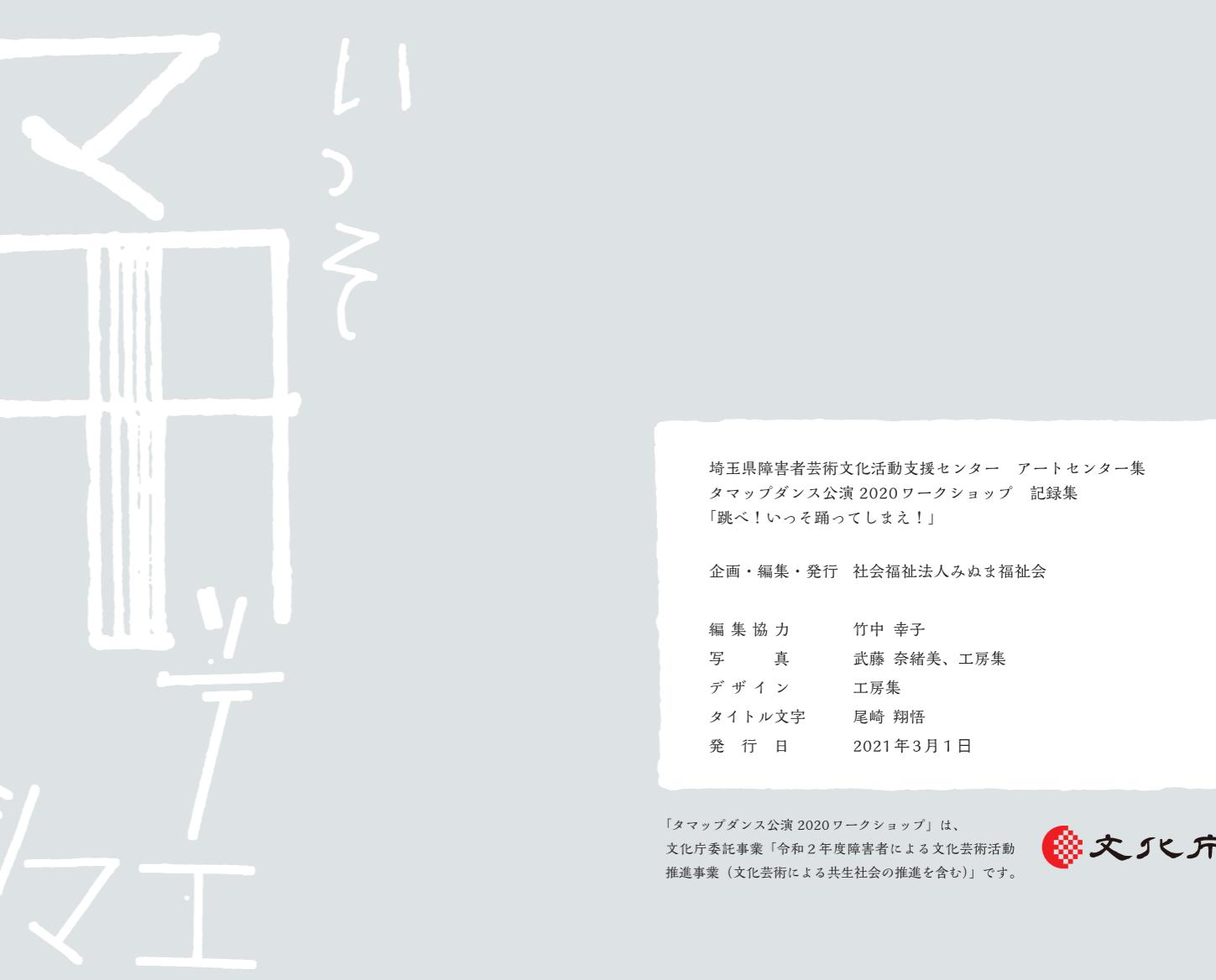
＼ 動画完成！ /

タマップダンス公演 2020 ワークショップ 記録Movie  
「跳べ！いっそ踊ってしまえ！」

本ワークショップの模様を映像化。  
独創的な身体表現の記録をご覧ください。



▼動画は  
アートセンター集  
ホームページより



埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集  
タマップダンス公演 2020 ワークショップ 記録集  
「跳べ！いっそ踊ってしまえ！」

企画・編集・発行 社会福祉法人みぬま福祉会

編集協力 竹中 幸子  
写 真 武藤 奈緒美、工房集  
デザイン 工房集  
タイトル文字 尾崎 翔悟  
発行日 2021年3月1日

「タマップダンス公演 2020 ワークショップ」は、  
文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動  
推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む）」です。



